

低温の影響で生育は遅れ気味

1. 水稻の生育状況(あきたこまち)

前回の調査以降、低温日が続いたことで「あきたこまち」の葉齢からみた生育は、平年と比べ「**5～6日程度の遅れ**」、茎数や葉色からみた生育量は『**不足ぎみ**』であり、他品種も同様の生育状況となっておりますが、6月が同様に生育不良であった昨年ほどの停滞傾向にはなく、気温の上昇とともに回復してくるものと思われます。

また、還元状態等により停滞気味の圃場も見受けられますので、以下を参考に生育の回復に努めてください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月18日)

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	28.9	31.3	162	236	6.6	7.7	38.2	41.0
(慣行)	28.1		136		6.4		37.1	
(側条ペースト等)	29.7		185		6.7		39.1	
前年比	102%		125%		0.0葉		114%	
平年比	92%		69%		-1.1葉		93%	
たつこもち	29.1	33.1	185	241	6.7	7.6	36.8	41.5
きぬのはだ	30.6	34.2	270	238	7.4	7.7	37.8	39.6
ときめきもち	28.1	34.0	148	226	6.6	7.4	36.7	39.7

2. 今後の技術対応

1) 水管理

「上位葉の葉先の黄化」「発根が少ない」「葉が細い」などの還元障害の症状により、分けつの発生が少ない圃場では、晴天日に3日～4日程度落水してから水を入替え、茎数確保に努めてください。また、葉色を除いた生育量が極端に少ない圃場は、硫酸を10a当たりN成分量で1.0kg程度を目安に追肥を実施してください。

なお、順調に茎数が確保されている圃場については、葉齢9葉を目安に中干し・溝切りの準備を進めてください。

2) 病虫害防除

・アワヨトウ

6月上旬に成虫の飛来が確認されており、卵から孵化した幼虫が現在、刈取り直前の麦圃場等で散見されております。今後、麦刈りに後に水稻圃場への移動が予想されますので、麦圃場に隣接している圃場等は特に警戒が必要となりますので、麦刈り時より深水での湛水状態を保ち、幼虫の侵入を防いでください。また、畦畔付近を注視し、幼虫の発生が見られた場合は、J A 営農支援課にご連絡・ご相談ください。(電話 45-3033)

※小麦の刈取り予想は6月30日頃～7月上旬の見込みです。

※ 圃場での「ばか苗」は、見つけしだい抜取りをよろしくお願いいたします。